

第1回

湯崎知事と 「ひろしまの未来を語る」 (三次市)

とき 令和2年11月26日(木)

ところ 三次もののけミュージアム

目次頁

開 会	1
知事ビジョン説明	1
参加者①	4
参加者②	5
参加者③	6
参加者④	7
参加者⑤	7
参加者⑥	8
フリートーク	9
閉 会	15

広島県

開 会

司会(穂丸)： 皆さま、お待たせしました。

ただいまから、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」意見交換会、「ひろしまの未来を語る in 三次」を開催いたします。

はじめに、本日までご参加の皆さんをご紹介します。

湯崎知事から右手側になります、弓掛友さんです。柄洋恵さんです。榎原祐実さんです。片山治孝さんです。小川治孝さんです。岩崎積さんです。

また本日は三次市長、福岡誠志様、広島県議会議員、下森宏明様にもご出席いただいております。

福 岡 市 長： よろしく願いいたします。

意見交換

司 会： 本日、意見交換いただくテーマであります「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の説明、その後意見交換に入りますが、ここからは湯崎知事に進行役をお願いしたいと思います。

湯崎知事どうぞよろしくお願いいたします。

湯 崎 知 事： 皆さんこんばんは。本日は大変お忙しい中、こうやってお集まりいただきまして、ありがとうございます。

広島県では、10年後の目指す姿、その実現の方向性についてまとめました。これは総合計画になるのですが「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」これを10月に策定いたしました。

来年度からこのビジョンによる、新たな広島県づくりをこれから進めていくわけですが、これは県民の皆さんと一緒に進めていきたいと考えているところであります。

この会は県内23市町で行う予定にしておりました。今日はその皮切り、第1回目なのですが、県民の皆さんの率直なご意見をお伺いしたいと思っております、今後の施策展開につなげていきたいと考えているところであります。

それではこちらのスクリーン、お手元にも資料があると思いますが、御覧いただければと思います。

「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」でございます。

この新しいロゴというかマーク、これも注目していただきたいのですが、緑の安心に、青い誇りの上に挑戦が乗っているという、矢印で上に向かっていこうというマークになっております。一生懸命スタッフが考えました。

まず策定にあたってということですが、背景にあるもの、いろいろな課題なり大きな社会の変化があります。人口の減少だとか、あるいはグローバル化さらに進展をしていくとか、あるいは今デジタル技術が急速に変化をしていることだとか、あるいは格差、日本の中でもいわれていますし、世界的にも格差問題になっている。あるいは災害、それからもちろんコロナ、こんなことが起きているということです。

この新たな広島県づくりに向けて、まず実はいちばん右側にあるべき姿とありますが、概ね30年後にこんなふうになってほしいと、こんなふうになってほしいというのは、あとでそれぞれ分野が出てきますが、いろいろな分野ごとに、この分野においては、こんなふうになってほしいよねと、例えば子育てだとかこうだよね、教育だとかこうだよねと、あるいは医療だとかこうだよねとか、そういう姿を描いて、それに向かっていくために10年後はどうなっているだろうか、もう1回この姿を描いて、そこにどうやったら行き着けるだろうかということで作っています。

全体の考え方ですが、基本理念としては「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現となっておりますが、目指す姿として、冒頭のマークをご紹介しますように、県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」によって、夢や希望に「挑戦」している。そういった姿を目指していく。

同時に仕事も暮らしも。これは実は前のビジョンですね、これも仕事も暮らしも欲張りなライフスタイルを実現するというのを掲げていたのですが、仕事だけとか、あるいは暮らしだけではなくて、どちらも欲張りに目指していこうということがあります。

それから、里もまちもということで、県内のどの場所でも、それぞれの欲張りなライフスタイルの実現ができると、そういうところを目指していこうということです。

繰り返しになりますが「安心」の土台と「誇り」の高まりによって、夢や希望に「挑戦」する。

もう一つ、「適散・適集社会」この広島県は都市と自然が近いということが大きな特徴であります。この都市がすごく密になりすぎて、いろいろなリスクが発生していますよね、コロナにしてもそうですし、災害にしてもそうなのですが、このコロナを通じて、分散というのがすごく大事だということが改めて分かったのです。

適切な分散、これを実現しようと、例えばイノベーションを生んでいくとか、何か新しい活気を生んでいくというのは一定の集中も必要なところでもありますので、それは適切な集中をして、密すぎないような集中を作っていきますよとっています。

それで「適散・適集社会」といっていますが、日本全体で目指していくべき新しい方法ですが、そのフロントランナーになっていこうと位置づけています。

いろいろな分野別の施策があるわけですが、それを貫いてデジタルトランスフォーメーション、DXを推進していこう。それからひろしまブランドをもっと強くしていこう。生涯にわたる人材育成ずっと学び続ける、そういったことを3つの視点として貫いていこうとしています。

実は調査をしますと、県民の皆様は今の生活に満足されている方が多いのです。満足度調査をするとかなり高い、毎年上がっている状況です。ただ6割の方は、何か不安だと感じておられるのです。健康だとか年金の問題、医療、所得の格差の問題とか、そういった不安を持っています。

県民の皆様は夢や希望を持っていただく、これはポジティブなところですが、それが大事なことで、その前提としていろいろな不安があるので、それを軽減して安心につなげていくことが大事だなど。

そのための視点、下に書いてありますが、そこをしっかりとやっていこうと作っています。

広島県にはいろいろな強みがあって、海も山もあって、おいしいものもたくさんあります。いろいろな産業が広島県から生まれてきている。自然と都市機能が近いところにある。それからチャレンジ精神も旺盛という強み、これを磨いていって誇りを高めていく、これも1つ大きく貫いているところです。

それをベースに「挑戦」を後押ししていこうと、挑戦をしていくというのが、それぞれの皆さんの欲張りな、欲張りなというのは、自分が希望する仕事だとか暮らしだとか、自分が希望するライフスタイルを追求することができる。その結果、実現することができる。そういうことをいっています。

それから「里もまちも」です。都市の力というのがやはり大きいので、県全体をけん引するような魅力ある都市を作っていく。一方で、先ほど申し上げた適切な分散、それを生かした自然豊かで潤いをもたらす中山間地域これをしっかりとやっていこうと。その間というのも実はあって、意外と便利な町があるので、そういった集約型の都市を作っていこうと考えています。

それからコロナですね、経済的な影響もありましたし、産業的にも、もちろん飲食にも影響がありましたが、サプライチェーンにも大きな影響があったということもあります。

従前から東京一極集中だとか、あるいはデジタルが遅れているという課題、こういったことが改めて浮き彫りになりました。とにかく東京一極集中に表れていますが、密にしていこうというのは、先ほど申し上げたように、少しおかしいのではないのと、みんな気づいてきた。

そういう中で人と人との距離を分散、デジタル技術があつたら、いろいろな空間的な制約だとか時間的な制約が乗り越えることができるようになる。一方で、先ほど申し上げたような、知の集合とか集積も大事。それで「適散・適集社会」を作っていく必要があるということですよ。

そういう観点から見ると広島県は、いろいろたくさん強みがあると思っています。

先ほど申し上げた、3つの視点です。デジタルトランスフォーメーション、ひろしまブランド強化する、それから人材育成を進めていく。それを17の分野に分けて、それぞれの分野ごとに目指す姿を作っています。

これらの取組を総合的に推進していこうということです。例えば子ども・子育てでいうと、10年後の目指す姿は、全ての家庭を妊娠期から子ども期まで切れ目なく見守って支援するネウボラが全市町に設置できている。子育て家庭に関わる医療機関、保育所・

幼稚園、子育て支援拠点、学校等と連携して子どもたちを、いろいろな方向から継続的に見守ることによって、しっかりと子どもたちに対する支援が届けられている。

目標としては、安心して妊娠や出産、子育てができていていると思っている人の割合を10年後に91%にしようと、こういう形です。

もう一つ、教育についても目指す姿というのがあって、いろいろな指標を見ながら、それに取り組んでいこうと、こういうふう構成をしているところでもあります。

これは17の分野、すごく長いのでご説明は割愛はしますが、こういう形で県内どこに住んでいても、県民の皆様一人一人が、夢や希望に挑戦できる広島県づくりを推進していこうという内容でございます。

長くなってしまいましたが、こういったビジョン。これはみんなで進めていこうと考えておるものでございます。

それでは、続いて意見交換に入らせていただきたいと思います。

はじめに参加者の方、お一人お一人5分程度、ご意見あるいはご提案をお話いただきたいと思います。皆様のご発言一巡したら、残りの時間で全員で意見交換できたたらと思いますので、よろしく願いいたします。

発言の順番は、あらかじめお知らせをさせていただいていると思いますので、お座りになったままで順次お願いをしたいと思います。まず、はじめに弓掛さんからお願いいたします。

参加者①

弓掛： それではお話をさせていただきます。

私が思っていることは、いろいろと知らないことが多いなということを感じています。何かといいますと、縁があって期間限定で2年前まで観光の仕事させていただいておりました。観光のことをやっている中で、施設ごとに収益を出さなければいけないということで、施設は施設ごとで、頑張っていらっしゃったりするので、なかなか連携が取れなかったり、ほかの市町と連携が取れなかったり、民間プレイヤーとの連携が取れなかったりを感じたところがありまして、その中で連携を取りながら、いろいろとデータを集めたり仮説、チャレンジ、反省というのをPDCAサイクルで回していくことが必要なのですが、その中で先ほど知事おっしゃったデジタル技術の進歩というのが、かなり進んでいますので、私も観光の仕事をするまで知らなかったのですが、ホームページもタダで簡単に誰でもできるような時代になっていまして、ペライチというものだったり、Wixというものがあって、それを利用すれば誰でも簡単にできたり、ホームページの誰が行き来しているかを、グーグルアナリティクスというものを見ながら、今日どれだけ人が来たということが分かったり、SNSやインスタグラムでも何人が見ているか集計できたりするものがあることを観光の仕事で知りました。

そういう意味では今から観光などするうえで、データの分析などを行ったうえで、いったい三次の観光で何が必要なのか、どういう宣伝が必要なのか、プレイヤーとかに、どうやって育成につなげていくのかを考えたのですが、いちばん大事なのは三次だったり観光全体をどうしていくか、目指す姿勢も一貫して取り組むことが必要なのではないかと私は思っております。

そういう意味では、ほかの中小企業だったりITも必要になってきますし、そこで行政に頼るのではなく、民間の力で引っ張って行って、そこに行政に補助に入ってもらった姿勢が特に必要なのではないかと私は思っています。話は以上になります。ありがとうございます。

湯崎知事： ありがとうございます。

続いて柄さん、お願いいたします。

参加者②

柄： こんにちは。まず今回のような機会をいただきまして、わざわざこちらに来ていただき、とても楽しみにしておりました。ありがとうございます。

いろいろな意見を持って、三次市の方も今まで会うことのなかった方々と、こういう機会を通して一緒に時間を共有できることにうれしいと思っています。よろしく願いいたします。

私が考えたことなのですが、今広島ができるかもしれないことということで考えてみ

ました。

まず広島未来（三次の未来）を考えたときに、私の中でハッと3つのことが浮かびました。まず1つは地方の再生についてです。これは都市集中型、こちらを変えていくということ。2つ目、自給自足的な生き方を目指す。これからの時代、もしかして鍵はこれなのかなと思っています。

自給自足的な生き方を目指すということは食べ物を自分で作る。店や外国に頼らない、自分の家で作る。そして家族とともに生きる。そういう家族が増えれば広島県はもとより、国の受給率もアップするというので、始めるところは1つ1つの家族なのかなと、そのためにはどうしても国の助けがあればいいなと思います。

3つ目は、これは本当に我ながらいいアイデアだと思っているのですが、農業留学ということを考えてみました。今コロナのご時世ということもあって、ちょうど地方へ向かって人が都市部から流動していますよね、それこそ先ほど知事がおっしゃったように、広島は自然がたくさんある。山も海もある。そういう広島がきっかけを与える必要があると思います。これは広島の強みだと。

いろいろと考えてみまして、地球には77億でしたか、すごくたくさんの方が住んでいますが、いろいろなタイプの人、一人一人に個性があります。

例えば、きらびやかな都会でバリバリ働いて、そういうところにやりがいを見つける人もいれば、逆にゆったりしたスペースのところにおいで、自然の中で自分自身を見つけに行く、本当の自分を見つけるといえることができる人もいます。後者の人々を対象に、広島がきっかけを与えることができるかなということが農業留学なのです。

まだ、地方への転出を決めかねている人も、まだまだいるはずだと思うのです。そういった都心において地方に出たい、でも結局何からしたらいい。しなくてはいけないことはたくさんあります。まず仕事どうしよう。住むところどうしよう。私は移住者だけど、近所の方は親切に受け入れてくれるかなとか、子どもの学校とかいろいろあると思うのですが、それを県が農業留学ということで家も用意する、そういったことを1セットで提案すれば決めやすいと思うのです。

都会にずっと住んでいると、田舎に住むイメージがわからないと思うのです。それでもそういう1セットで提案することによって、自分で想像することができます。そうすると、やってみようかな人生1回だけだとして、もしかしたら勇気が出て1歩進みやすくなるかもしれません。

つまり農業留学というのは、自然と関わるために地方移住したいという人を受け入れるということなのです。

私がイメージする農業留学は、あくまでも個人的見解なのですが、好き放題に考えてみました。

まず有機農法がいいかと、やはり今日、量より質と思う人も多いわけで、若い人の中にもアレルギーをたくさん持っている人いますよね。

その辺は詳しくないのですが、全国的に有機農法をメインとする農業留学をしているところがあるのかなと、自分で調べていないのですが、もしどこもしていなければ広島県が率先してやることもおもしろいかなと思いました。

移住した人が地方に来て不安とか、今まで体力を使っていなかった、別の体力を使わないといけないとなると思うのです。そうすると学校は基本的短めに設定します。1日みっちり勉強してみっちり働くということは、皆さん都心で疲れていると思いますので、午前中は座学、そして午後は先生、もちろん地元の人と呼んで実践にして、あくまでも疲れのこない時間を設定します。

その次、学校が準備した土地があると思うのです。耕作放棄地だけではなくて、今度は地元の人ともうまく交流ができるように、地元の人のお手伝いというカリキュラムも入れ込みます。

そして地域の祭り、三次市のある部分では残念ながら限界集落といわれるところも出てきています。そういったところで移住者の人たちが、祭りに参加したり交流を持つことによって村もみんな元気になると思います。地域の祭りなどに参加することもカリキュラムに含むということです。

学校が落ち着いてきて板についてきたら今度は林業とも連携します。そうすることによって山が整備され、それこそ三次市の中でもまつたけの豊富なところがありましたが、そういったまつたけ、きのこ、山菜、今はだんだん日本からなくなっていっているようなものが復活するのかなと思います。

だいたいそのような感じなのですが、これがずっと進んでいって、それこそ10後ぐらいに、今、法案が法制化されようとしている新しい働き方というのがありますよね。つまり働く人自らが出資して意見を出し合って、働いて運営に関わる共同労働ですか、ワーカーズコープという言い方をしますよね。そのような働き方につながっていく可能性が出てくるかもしれません。そうすると、すごくおもしろいと思います。

少し長くなりましたが、以上です。

湯崎知事： ありがとうございます。

それでは続いて榎原さんお願いいたします。

参加者③

榎原： 榎原祐美といます。今日は人生の中でめったにないこういった場に立たせていただき、少し緊張はしているのですが、楽しませてもらおうと思いますのでよろしくお願い致します。

私は「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」を読ませていただきまして、働き方改革、多様な主体の活躍のところに書かれている、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実践やライフイベントと両立しながら働き続ける環境整備という内容に共感をしています。

私自身なのですが、自宅を事務所に構えて自営業をしております。それをはじめた理由というのが、結婚・出産を機に仕事、働くということどうしようか思っていたときに、子どもたちが幼稚園へ行っている間、小学校へ通っている間、その時間はお仕事時間として、帰ってきたらその後は家族との時間、1日の中で両方大切にしたいと思って自営業を始めて実践してきました。

今年の新型コロナウイルス感染症の影響で、外出自粛というときに実際に従業員の子たちも、すぐにテレワークの仕事の対応ができたこともありますし、休校中に小学校からたくさんの宿題が出てすごく大変だったのですが、もともと自宅で仕事をしていますので、宿題を頑張っている子どもたちに平日頃寄り添いながら、一緒に乗り越えてこられたと、こういった働き方をされていて実際良かったなと実感しています。

今後、私のようにというのも少しおこがましい話なのですが、子育ての時間もお仕事の時間も1日の中で両方を充実して過ごせる、そういった人が1人でも増えてくれたらいいなと思っているので、今三次市には内職という職業がないと思いますので、内職を生み出していける活動ができたらいいなと思っています。

働き方改革というところで、私のように幼稚園や小学校に行っている間だけ働きたいという方、多いと思うのです。ですからそういった時間だけ、2時半とか3時半といった時間までの就業時間を大前提に設定された求人が広まればいいなと思っているので、市役所だったり県庁だったり、そういうところが率先して就業時間を作っていただければうれしいと思います。

持続可能なまちづくりのところで、災害があつたり、いろいろなところに整備とても大変だと思うのですが、今、私の世界だけですが感じているのが、住宅街の中にある小さな公園が見過ごされているのではないかと感じています。1年に数回、草刈りをされているだけで、遊具はどんどんなくなっていってしまう、周辺に囲われているフェンスもさびて、どんどんボロボロになっている小さな公園が多いと思っていて、そういった小さな公園は住宅街の中にありますので、住まわれる人たちの散歩コースの大事な場所だと思うのです。それなので小さな公園が緑や花であふれていて、ゆっくり過ごせる空間が作られていたら、この近所に住みたいと思える方多いと思うのです。特に小さなお子様がいらつしゃるとそう思われる方多いと思うので、小さな公園こそきれいな緑化だったり、公園整備をしていただければ幸いです。

実際、三次市には大きな公園が東酒屋のあそびの王国だったり、県立みよし公園に遊具がしっかりしたすてきな公園が整備されているのですが、本当に今、公園でも一極集中起こっていると思います。

すごく混雑していて、近所に住みながらも数回しか行けないという環境にあるので、毎日の散歩コースになる公園がすてきだったら、暮らしが豊かになるなと思っているので、私としては環境整備とか、そういったことに積極的に参加をしながら、小さな公園へ皆さんの意識が向くような、小さな公園での小さなイベントもやっていけたらいいなと思っています。私の意見は以上です。

湯崎知事： ありがとうございます。

それでは続いて片山さんお願いいたします。

参加者④

片 山： 本日はこのような機会を設けていただきましてありがとうございます。

私自身、地域で暮らす中で日常過ごしたときに、当たり前前に物事が起こる中で、地域の魅力や価値って気づきにくいと思うところがあります。

その中でやはり、私自身は地域外の人を含めて、どのような魅力や価値があるのかを共有していきながら知っていく必要があると考えています。

広島県自体は本当に地域特性に恵まれているので、県内の市町村が連携を密にして各市町村の魅力や価値を強固にさせていただき、県外はもちろんですが国際的な知名度があることから、国外へ発信していく必要もあると考えております。

しかし現状は広島といえば、広島市を中心に宮島への観光客が多いと思うのですが、やはりそれ以外の各市町村への観光客が増えるような、魅力度が価値を明確にして発信していく必要があるのではないかと考えております。以上です。

湯 崎 知 事： ありがとうございます。

続いて小川さんお願いいたします。

参加者⑤

小 川： よろしくお願いいたします。

私が思いますのは「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の実現に向けて、私は三次市甲奴町というところで商売をさせていただいています。ひいおじいちゃんから受け継いだ4代目です。そういった物の見方からお話させていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

今の広島のビジョンを実現していくにあたり、まず私がとても大切にしていること、それは物の見方を変えることではないかと、そういうふうに僕はやっています。

田舎だからとか都会だからとか、そういう田舎だから何もないという物の見方を変えてみると、いろいろなことができるなと思っています。

それは広島県全体を資源と捉えて見るときに、先ほどもご紹介がありました、山には緑もあって、海にはすごくきれいな風景がある。例えば私は自分の地元がすごく好きで、でも農家の困っている声を聞いて、なんとかできないかなと思ったときに、地元のお米ってどんなお米なのだろうといろいろと調べて検証してみたときに、とても良いお米ができるのだな、でも売り方を知らなかったり、そういったところを農家のお手伝いできないかなと、先ほどおっしゃった内職も、主婦の方はなかなか外に働きに出られないのに、困っていらっしゃる。何かお手伝いできないかと思って、お米を企業へ販売させていただくという新しい事業を作らせていただきました。

それで一昨年、広島の里山グッドアワードというところで、実は大賞をいただきました。まだ農家の方、地域の方と話をしていく中で、おばあちゃんが、「うちの機械が入らん田んぼじゃけえ、誰も小作をしてくれる人がおらのよ」という話を聞いたときに、僕自身も荒れていく農地を見ていくのがとてもつらくて、なんとかできないかと思っていて、いろいろと土地の気候を調べていくと、福岡市長が以前からずっと唱えられていた、サプリメントの材料になるとか、健康食品の原材料を空き農地で作っていきたい、そういったことも頭に入っていて何ができるだろうと思ったときに、ブルーベリーってみんな植えているけれども、たくさんできるけれどもと調べてみると、広島県は実は全国の1%しか作っていないと、それではブルーベリーをどうにかしていったらいいのではないかと、実は昨年リモートセンシングとIoTを活用した事業として、ひろしま産業振興機構に広島ベンチャーに応募させていただいて、その採択をいただきました。

何をお伝えしたいか、それは物の見方を変えて、そこで資源と捉えること、最初のマインドをそこにおくと、いろいろなものが華やかに僕の中では見えてきています。

欲張りな働き方、そういうふうに変えたら今コロナでリモートができるようになって、コロナでデジタル技術がどんどん進歩してきています。そういったリモートワークができる環境を使えば、三次は実はぶどうの産地であります。長い間ぶどうを作っていたらっしゃる生産者がいます。そして三次ワイナリーがあります。すごくいいワインを作っていたらっしゃいます。

それでも空き農地があったり、耕作放棄をされた農地があったり、古民家があったり、そういった困っていることもある。そういう中で例えば、三次がワインの醸造の特産区を

取れば、6,000Lの醸造から2,000Lまで下げることができます。

そうすると、地元が目線かというと、それだけでは商売として成り立たない。確かにそうかもしれませんが、けれども今の都会の人の目線から見ると、リモートワークができる。今、いろいろなところに地域居住であったり、分散型社会の中で田舎に移り住みたいとおっしゃる方、その中でもとりわけワイン作りしたいという方、もしかしたらいらっしゃるかもしれない。

そういったときに、三次には空き農地がある、これは資源です。そして古民家がある、これも資源です。そしてなにより三次ワイナリーがある、これも資源です。

例えばワイナリーで醸造の勉強会をして教えていただいたり、ワイン用のぶどうの生産の勉強をさせていただく、そうすると三次ワイナリーの中で、クラフトワインコーナーができるかもしれない。もっといえば全国にワイナリーがあるのは303なのですが、広島県に30ぐらいクラフトワイナリーができたなら全国の1割がある。いろいろな物の見方ができていくと思うのです。

例えば、そういったことができていける広島県。そしてそういう挑戦を後押しできるような施策ができたらいいなと思っております。以上でございます。

湯崎知事： ありがとうございます。

それでは続いて、岩崎さんお願いいたします。

事例発表⑥

岩崎： いろいろな意見聞かせていただきまして、ありがとうございます。

私のほうは、少し教育と防災について意見を述べさせていただきたいと思います。

このところ広島県もご多分に漏れず、各市町で学校統廃合が話題になってきております。

しかしながら、学校は地域にとっては宝物なのです。宝物を生かしていく手立てを、こういうものを行政だけで考えるのではなく、地域住民も一緒になって考える、そういう場を作っていただければありがたいかなと思います。

明治時代、長岡藩が窮地に至ったときに、米100俵という言葉が生まれております。100俵の米を支援物資としていただいた長岡藩は、その米は食べないでそれを売却し教育の費用に当てたわけです。それだけ教育を大切にしていた。そうした精神を我々も少し共有していきたい。また大規模校では学べない、小規模校を選んでいく子ども、そして親、こういうものも現在でもおられます。

こうした思いも尊重できる教育環境の整備。こういうことを現在のままの学校でしてくれといっても不可能だと思います。やはり経済的なこともあります。この辺の削減案もみんな一緒になって考え、費用を落とし地域で学ぶ、そうした子どもたちを作りたい、こういうふうな思いでいるわけでございます。

次に防災・減災でございますが、先般の可愛川では氾濫し江津市などでは大変な災害が出ております。これらに関しては、三次市には逆にすごい財産であるわけです。何かといいますとため池です。

三次市のため池が1,500箇所余りあるかと聞いております。その貯水量が900万立方メートル。これは三次市だけでそうですから、可愛川へ流れている流域、全てを足していくと膨大な量になってくる。こうしたため池も、大雨災害のときは逆に決壊の恐れが出て危険のものとされている。こうしたため池を行政も農家の財産として考えるだけでなく、行政の財産でもあるという考え方もしていただきたい。

洪水等の災害発生時期には、強制的に水位を落としてしまって、そこで調整していく。そうしますと、三次市だけでいいますと2キロ四方が内水で1メートル水に浸かっても400万リューベ、ため池は900万リューベ貯められるわけですから、かなりの対応ができてくるのではないかと。

そうしたことも合わせ、またこうしたため池自体を単なる田んぼへの給水施設として考えるだけでなく、災害のときはそうした貯水能力、そしてため池から用排水路を通らないで直接河川へ放流していく、特に低地が多い場合。こうしたことをすることによって内水を防ぐこともある程度できてくるのではないだろうかと思っております。

こうしたことは比較的、経費的にも安くて済む、そういうふうなことも発想の1つとして、共に考えていけばいいのではないかとと思っております。以上です。

フリートーク

湯崎知事： 皆さん、どうもありがとうございました。今、本当にいろいろなご意見をいただいて、私はずっとビジョンとの関係で、どうなのだろうと考えながらお伺いしていたのですが、弓掛さん、観光これが今デジタルを活用して、いろいろなことができるのではないかとということだと思うのですが、まさに広島県の今のビジョンの中でも、観光は非常に大きな経済的あるいは産業的な柱にしていこうとしていますし、またこれは誇りの基だと思うのです。

我々の自慢これが皆さんに楽しんでいただくということが観光だし、それを提供できるのは誇りだし、またお客さんが来てそれを良かったねと言ってくれるのは、すごい誇りだと思います。

それが誇りでありまた同時に挑戦だと思うのですが、それが今の新しいデジタル技術を使えば、いろいろなことができるというか、より発展させることができるということ、我々がDXといっていますが、それを活用していけるのではないかと思います。

それから柄さんも農業留学というお話でしたが、今広島県への移住をどういうふうに進めていくかが大きなテーマだと思うのです。「適散・適集社会」というときに、今、中山間地域では適散のところが過疎になっていて、農業の担い手も減って耕作放棄地が増えているというところで、そこに人を呼び込んでくる、それはすごく大事な目標だと我々も思っているのですが、農業を軸に引っ張ってこうようと、そのときにパッケージでというのもおもしろいアイデアだと思うのです。

いろいろなやり方があると思うのですが、中山間地域に人が来て仕事をしたり、暮らしを実現できるということをしかり進めなければいけないと思いました。

榎原さんの、私はお伺いしていて、我々はこちら数年取り組んできていた多様な働き方とか、あるいは欲張りなライフスタイルというか、それを本当に実現をされていて、コロナもデジタルで乗り越えられて素晴らしいなと思ったのですが、まさにそういった方がどういうふうが増えていくか、増やしていくかが大きな課題だと思います。

もう一つは小川さんがおっしゃったことと関わるのだと思うのですが、物の見方、今のこうやったら自分が望むライフスタイルができるという、恐らくそういう物の見方で今仕事と暮らしを作っておられるので、それがポジティブなところにつながっているのではないかと私は強く思いました。それをどういうふうを増やしていくか。

また身近な公園というところは、おっしゃったように分散、公園も集中しているということがあって、これも分散って我々人口の話を考えていましたが、公園の分散というのものもあるのかなと思いました。

片山さんは、見方によってすごくいろいろな宝があると、それはなかなか自分では気づけないところがあって、外の人の力も借りながらということだと思うのです。

それについては、まさに今、農業留学も含めて外からの人も呼び込んでしようと、それがまた新しい見方につながって新しい地域の宝の発展につながって、それを発信していくことにつながっていくのではないかと思います。

見方をどう持つかということ、それがすごく大事なことなのだろうと感じたところがあります。

それはもちろん新しいビジョンの中で、横串で持とうとしている広島のブランド、そういうものがブランドになっていく、そのブランドを強固にしていくということではないかと思います。

小川さんも、いろいろなチャレンジをやらせていただいて、物の見方というのは私も本当にそのとおりだと思いますし、今も申し上げたように、そういう捉え方によって今いろいろなことがあるということが、それこそ捨てるものが宝になる、そういうことになるのではないかと思います。そのときにいろいろな工夫があれば、今のお米の話にしても、耕作放棄地もある程度、言い方が悪いかもしれませんが、捨てられつつある農地、主婦の方の本当に何かいろいろとやりたいという時間、これもひよっとしたら捨てられるというのは変ですが、少し注目されていない時間かもしれない。これをうまく組み合わせたら素晴らしいものができて、みんながハッピーになるのです。

同じようなことで、クラフトワイナリーということもあるかなと思いますし、このワイナリーというのも柄さんがおっしゃっていたような、人を呼び込んでくるときの、いろいろなところに反応する。町のきらびやかなものが好きな人もいるとおっしゃっていましたが、ワイナリーやってみたいという人もいらっしゃる。

そういういろいろな多様な宝を作っていくと、そこに響いてくる方がいらっしゃるのだろうなという。それをたくさん作っていくことが大事だと私もすごく感じました。

それから岩崎さんは、本当に青河の取り組みは全国的にも有名で素晴らしいのですが、いかに地域に密着した学校というのを宝として大事にしていくか、実は県でも小学校、中学校はもちろん、地域のものとしてあると思うのですが、県立高校についても今いろいろと考えているのは、小さな学校を単独だけでやるのではなくて、いかにつなげて、デジタルの力でつなげて協力して、いろいろなことができるのではないかとということも、今模索をし始めているのですが、そういったことが場合によっては小学校でもできるのかもしれないということです。

おっしゃるように、いろいろなコストの問題はあるので、そういったことも配慮しながら考えていかなければいけない。

ため池についても繰り返しになるかもしれませんが、小川さんの見方を変えればというところで、見方を変えれば困りものため池も役に立つということかもしれません。

今、なかなか管理をする人がいなくて我々困っているのですが、それをどういうふうに乗越えていくかという工夫があったら、そういった力を発揮するのにいいかもしれないなと思いました。

そういう意味で、今日のお話を全体聞いていて、1つはチャレンジについて考える方が多いなと思ったのです。いろいろな工夫をしたり、こんなことをしたらおもしろいのではないかとか、素晴らしいではないかと、皆さんそういうご意見が多かったなと思ひまして、やはり人間の動いていく原動力というか何かしたいという気持ち、それを大事にするということが大事だと今日は改めて思ったしだいです。

安心については、今日のご意見あまりなかったと思うのですが、そうはいっても不安な中だと、なかなか挑戦しようという気持ちは難しいと思うので、そこは我々もしっかりと安心の土台づくりはやっていきたいと思ったしだいです。

皆さんのご意見を伺って、私が思ったことをお話をさせていただきましたが、福岡市長は何かいかがでしょうか。

福岡市長： 皆さんのそれぞれの思いや意見を聞かせていただくことを楽しみに、今日おじゃまさせてもらいました。

本当に今の時期は、コロナによって不安や恐ろしい気持ち皆さんいろいろな経験しながら日常生活を送られているということと同時に、このコロナだからこそ新しい価値を見出して、新しい生活スタイルとか働き方とか、社会構造というのを変革していく大きな時期にきているのではないかと私自身思っています。

コロナまでは国内より国外に目を向けられていた。しかしコロナによって国外から国内に目を向けられている。さらに都市から地方に目を向けられるといったことで、大きな転換期がきていると思って、コロナで不安や怖い思いをしたけれども、それ以上に新しい価値を見いだせる時期が、このコロナの時期なのかなと感じさせてもらっています。

そういう意味では、今日新しい価値について皆さんからいろいろな提案やご意見をいただきましたが、まさにこの三次にしかできないこと、三次にしかない魅力それは何なのかを再発見させていただいたし、皆さんから出たご意見が三次の魅力につながり、広島県の魅力とか安心につながると、そして誇りにつながる中で広島のビジョンもできて、三次のビジョンも構築することができるのかなと感じさせてもらっています。

本当に今が転換期であり、チャンスであるということをご皆さんと共有する中で、その価値を創造し再発見してくる。そしてこの三次にしかできない取り組みを前に進めていくために、これからも皆さんといろいろな意見交換をしながら、まちづくりをしていきたいと思っています。

ちょうど今日からチャレンジトークということで、三次を皮切りに湯崎知事、今本当に忙しい中、三次にお越しいただきましたが、実は私もこのコロナ禍だからこそ、三次市として何かできないかということで、三次市内の19の自治連合会単位で移住者懇談会を開催させていただいております。

日頃、三次に生まれ育った我々が感じる価値と、やはり移住者の皆さんが三次市外から三次市内に住まわれて、その地域の価値とか宝はなんなのかということ聞かせていただく機会を持たせていただいて、改めて三次の魅力とか、コロナ禍でのそれぞれの地域の再発見というのを積み重ねていく中で、これからアフターコロナに向けての三次の地域づくりについて大きな原動力をいただきました。

本当に、今日改めて皆さんから三次のいろいろな思い価値について聞かせていただいて、感謝を申し上げたいと思いますし、これから皆さんと一緒に新しい三次のスタイルを構築していきたいと考えます。ありがとうございます。

湯崎知事： ありがとうございます。

それではあと約30分弱フリートークング、ここでディスカッションできる時間にしてはいるのですが、私から少し質問を投げかけさせていただければと思うのです。

ビジョン、今回お集まりいただくにあたって、パラパラと御覧いただいたりしたのではないかと思います。今日説明させていただいたお話「適散・適集社会」だとか、あるいはデジタルをうまく使っていこうとか、あるいは個別の分野あるのですが、ぶっちゃけどう思いますかという。

なぜ今日のような会をやらせていただいているかという、皆さんのいろいろなお話をお伺いして、我々の施策の中にどう取り組んでいけるかということもあるのですが、もう一つは、このビジョンをどうやって共有していくか、そこがすごく大きな課題で、もちろん皆さんいろいろな考えがあって、いろいろなやりたいこともあるというので、理念と関係ないよという方も、たくさんいらっしゃるかもしれないですが、ただエッセンスのところ、先ほどいろいろ出てきたように、例えば観光とか誇りですし、デジタルを使ったら働き方もうまくできるとか、あるいは観光もうまくできるのではというお話もあるし、農業でもあると、あるいは教育もうまくできると、そうやって見ていくとデジタル入れておいて良かったなとか思うのですが、そういうこともあるので、特にこういったビジョンのベースの考え方、それを共有していくのはすごく大事ではないかと思っています。

同時に実際県の実態を作っているのは、県庁でもなんでもありません。皆さん一人一人、企業の一つ一つ、あるいはいろいろな団体の一つ一つ、そういった皆さんが活動していることが県の実態なので、それを我々が後押しをする。これも小川さんが後押しをしておっしゃって、挑戦を後押しする。我々も本当にそういうふうにしたいなと思っていて、そういうふうにしたいのですが、そのためにもベースとして、みんなが共有できるものがあつたらいいなと思っていて、こうじゃないのか「適散・適集」といわれてもよく分からないとか、何かあつたらご意見いただければと思います。

いかがですか、どなたかありますか。いきなりふるとつらいですか。

柄さんいかがですか。

柄： 今、農業留学のことを言わせていただいたのですが、1番は広島を盛り上げるということと、自給率を上げるということなのです。

適切な分散と何度も出ましたが、それはピッタリじゃないかなと思っていて、実は私も25年間都会に住んでいました。それが今回、こちらにこさせていただくことになって、毎日幸せを感じております。

人が優しい、言い始めたらきりが無いのですが、例えばどこに止めても駐車場はタダだよとか、本当にどこに行っても必ずすぐに止められる。それは細かいことなのですが。

とにかく広島県の中でも都心といっても広島市の人でも、心の中でいいな、走るのは疲れた、ゆっくりしたいと思っても、やはりきっかけがあって、それこそ後押しができることがあればいいと思うのです。

すみません、答えになっていますか。

湯崎知事： ありがとうございます。

逆に分散の力というか、そのいいところはいっぱいある、そういうことですね。そういうふうにおっしゃっていただくとうれしいのですが、他の方はいかがですか。

弓掛さんお願いします。

弓掛： やはりこのビジョンを見たときに、もし僕がこのビジョンを実行しようと思ったときに、実行部隊というのが、なかなか難しいところなのではないかなと思いました。

もしやろうとしたときに実行までいくというところまで、ビジョンがまだ僕の中で見えないなど、どういうふうにしたら実行部隊のところまで降りていけるのかなということが課題なのかなと思いました。

そういう意味では県庁と市町で連携を取ったうえで、先ほどおっしゃっていたような市町から民間団体だったり、いろいろな団体があるので、そこでいろいろな活動していて、これが全部が連携取れば本当に実行できるのではないかと思いました。

湯崎知事： ありがとうございます。

連携が大事ということですね。実行部隊というのは、こういうと怒られるのですが、実行部隊は皆さんなのです。だから後押しして、そういうことだと思ってしまうのですが。そのところがいつも我々も課題で、行政がこういうふうになったら、何かみんなで共有するビジョンというか、こういう方向に向かっているというものが無いと、みんな力が

集まっていけないということがありますが。

他方で、みんなそれぞれ思うことが違うし、多様性というそれがいいわけです。都会でみんなが同じように働いて、同じように夜バーに飲みに行っても困るし、かといって、みんなが田舎で農業やりたいと、280万人が全部ばらけたりすると今度田舎が密になってしまっていてこれはこれで問題。やはりいろいろな人がいる。

いろいろな人がいながらもビジョンを共有して、そこにみんなが向かって行くことができたらいいなと、そのためのビジョンで、実行部隊は県民のみなさんで我々はそれを後押しする。

ただ、そこにそれを示すのが、行政として必要なことなのかなと思いつつやっているとところなのです。

ここの共有するというのが、なかなか難しいのです。

私も、あさってで丸11年になるのですが、11年やってなかなか、欲張りなライフスタイル、我々ずっと押しているのですが、そういう欲張りなライフスタイルは大事ですよということを言われたりする。いやすみません言っているのですがということが起きたりする。どうでしょう、どうやったら伝わっていきますか。

小川さんお願いします。

小川： 先ほど弓掛さんがおっしゃった、このビジョンをどうやって実行していくのか、なかなかイメージがわからない。先ほど知事がおっしゃった横串ということ、僕もすごく共感していて、三次市にいろいろ訪ねていくとやはり縦社会なのです。

いまだにというよりは、今も昔からもずっと縦の組織ですよ。ある課があって、ある課があって、一つ一つお話を伺っていたときに、その連携がなかなかできづらいと思うのです。

それで連携できたらいいのに、定住対策も定住だけではなく、そこには商工労働も絡んでいたり、働くところとももちろん教育も絡んでいるので、そういったところが課を超えて、部を超えて連携できるような仕組みができたらいいなと前々からすごく思っていました。

そして、先ほどビジョンのお話されましたが、これは甲奴町という小さなところでビジョンの共有は同世代、上の世代、下の世代頑張っているのです。子どもたちに言うのは、僕らは帰ってこいとは言わない、帰って来たい地域を作る。そのためには、まず大人に向けては、僕らが楽しんで豊かに生活している姿を子どもたちに見せることではないかなと、そういうふう先輩から教えていただいたこと、肅々と地域でやっていくと、今まさに社会増している現象が数年にわたって起きています。

出ていった子が帰りたいと、それで帰って来ている地域になっているのです。それを思ったときに、モデルを作って見せてやることなのかなと思ったのです。言葉でなかなか伝わらないので、こんな感じというモデルを作って見ていただくと、いろいろな角度から、いろいろな世代を超えて共有できるのではないかなと思いました。

湯崎知事： ありがとうございます。

横串ですよ。これは行政が結局、縦の中でやりがちなのですが、おっしゃるように、まさに現場というか県民の皆さんとか市民の皆さんの、それぞれの活動がある中で、それを横串に刺すのがむしろ行政の仕事ではないかと、そういうことだよ。逆に我々が縦を作ってはいけない。そういうことですよ。

いろいろなことに関わるのですよ。今おっしゃった農業留学のお話でも、それをやろうと思ったら農地の話は農林の部署だとか、家の話は地域づくりのあれだとか、県でいえば住宅課みたいところが空き家問題を扱ったりとかしているのですが、多岐にわたるので、それを1つのテーマで横に刺すことができたならそれをうまく動かしていく。

もう一つ連携が大事だなと、弓掛さんのお話でも改めて思いましたが、横串を刺して連携をさせていくというのが、行政が現場を支える、やるべき仕事だなと改めて思いました。

どうですか市長。

福岡市長： 本当に伝えることは行政にとっては、いちばん大きな課題だと思います。我々行政が、いろいろな広報とかSNSとかホームページとか、伝えたいことをしっかり伝えていても、受け取る側が三者三様で、いろいろと解釈によって困惑することが多々あるのですが、やはり伝えるというのは、一度だけ伝えたら終わりではなくて言い続ける。それを伝え続けて始めて周りに伝わり、伝わった人からさらに周りに伝わるということの地道な積み重ねなのかなと思ったりします。

ただ地道な積み重ねで、こういったビジョンを普及させるような物事と、防災でいったら一瞬のうちに皆さんに伝えなければいけない手段だったり、伝え方というのは、その時と場合によっていろいろな手段と手法を行政はそえなければいけないのかなと思います。

私が伝え方の1つのモデルとしているのが広島県です。

湯崎知事： ありがとうございます。

福岡市長： 湯崎知事が今、コロナのことでいつも動画を使って発信をされるというのは、やはり今までの知事以上に我々も身近に感じますし、やはり今までは文書とかホームページとか、そういったものでしか発信していなかったことが、コロナによって湯崎知事をより近くに感じさせていただいたり、動画を見ることでなるほどと。耳で聞いて目で見て実感をして情報を感じるという手段は今の三次市取り入れていますし、そういう発信の仕方は、いろいろなツールを使ってやっていきたいと思います。きょうも YouTube で発信されていますが、こういった皆さんの日常会話の中のことが発信されることで、新たな価値とか、いろいろなものを生んでいくのかなとなんとなく思っています。

湯崎知事： ありがとうございます。

福岡市長もすごく市民の皆さんと対話をしたり、情報を伝えていくというのを丁寧にしっかりとやっておられるというのは私も見ていますが、これを地道に続けなければいけないということです。

私もつい、だんだん愚痴ってくるようになってくる。なかなか伝わらないな、このような会までやって皆さんまで巻き込んでやっている。伝えるために頑張らないとなという感じです。

本当に連携を作るためには、一方的ではなくてこういった対話だとかも大事だし、また考えをしっかりとお伝えしていくことも大事だし、受け止め方がいろいろと我々が思っているように受け止められないというケースも多々ありますよね、そこは頑張って伝えていくしかないということなのかなと思いました。

岩崎さんどうですか。

岩崎： いろいろな情報とか企画とかそういうことの中で結局デジタル化といっても、一方的に入ってくるだけのものに比較的なっているのではないかと、やはり双方向的な対話といえますか、デジタルを活用した双方向通信を活用するとか、そういう面で連携が取れていくのではないかと。

特に今、5Gという技術が入ってきていますので、そこらへんをうまく活用すれば、例えばいろいろな広報1つするにしても、広報したことに対する意見が返ってくる。そういうふうなやり方が、ありがたいかなと思って聞いております。

湯崎知事： ありがとうございます。

デジタルはおっしゃるように、特に今の新しいデジタルは双方向でできるはずなのでもっとその機能を使ったより広い範囲の皆さんと意見交換ができやすい、伝わっていくとか、そういうことかなと私も感じました。

今日も YouTube で流していますが、このご意見が見ている方からもいただけると、またおもしろいものがあるかなと、たぶん今、私がしゃべりながら、事務局の皆さんが頭の中ぐるぐる、特に技術面支えていただいているスタッフの皆さんは、次回はどのようなだろうと思っておられるのではないかとと思うのです。

榎原さん、これまでのディスカッション聞いていかがですか。

榎原： 伝え方としては、どの業種の方もみんな共通して悩んでいらっしゃると思うのです。

私としては、やはり文章とか対話よりも視覚、目が入ってくるものがすごく大事だと思っていて、ピクトグラムでトイレのマークがトイレと認識できるのは、幼い2、3歳の子でも分かるというくらい、知的な印象はすごく大切だと思うので、本当に皆さんと色々な話ができて、いろいろな想像させてもらって、私も聞いていたし、私が話をしているときも皆さんもいろいろな想像をされていたと思うのですが、みんな個人個人で違うと思うのです。

それなので、そこを共有したいとか、共通認識を持ちたいということであれば、具体的に映像化して、それを市民の方、県民の方にお見せし続けるほうが、同じ方向に向きやすいのかなと思います。

私が公園が緑化されてほしいと言ったじゃないですか、あれも皆さんはどのくらいの緑化を考えられたかなと、ベランダに花が植えられているくらいじゃないですよ。セントラルパークのように、優雅で芝生の上でくつろいで本を読めるくらいのイメージが私

にはあったので、そこまで説明しないと共通認識にはならないのですよね。

それなので、具体的なモデルとかそういったところも、本当に作り物でいいと思うので、理想の形の働かされている人、農業されている人という映像から、すてきだなと思ってもらえるものを発信してもらえたらいいのかなと、勝手に思いながら聞かせてもらいました。

湯崎知事：なるほど、ありがとうございます。

今や若い人は YouTube 世代で、こんな話をしているか分かりませんが、うちの子もずっと YouTube 見ています。大丈夫かと思ったけれども、今の中学生、高校生はみんなそうみたいですね。

中高生だけではなくて、今どの自治体も動画を作って発信しますが、それがすごく効果があるということなのですね。

すてきな公園のこれも動画にして、子どもたちが遊んでいるようなところ、使い方も含めて見るとみんなすてきで。じゃあそれをどうやったら実現できるだろうと、そういうふうにつながるというと思います。視覚を活用するということですね。

片山さんいかがですか。

片山：それこそ情報はたくさん社会にある中で、やはり私自身こういう場に今回出席したという中でいいますと、仕事とか実際生活している中で課題があったり、何か体験したいという中で、どのように改善しないといけないか、やはり情報がないとなったときに地域の活動とかに積極的に参加する中で、人とのつながりができたり、実際つながりの中にいろいろなさらに情報が出る中で、自分自身の課題解決になるのかとなると、このようなビジョンだったり、それこそ先ほどありましたような、行政の横串ではないですが、自分がその課題に対して動く、協力していただけるという環境がおのずと僕自身は生きてくる中で感じるもので、どのように最後、持っていったいいか分からないのですが、僕自身生活する中で、日々課題とか解決に向けて動いていくということなのかなと思いました。

湯崎知事：ありがとうございます。

課題ってすごく大事だと思うのです。どんな課題を認識するかということがあって、それが1つのベースになって次の行動に移っていくというか、日々何も考えずに何の課題もなく暮らしていけたら、これは幸せなのかどうかよく分からないのですが。

前に会社経営をしていたときに、トヨタにあるとき行ったのです。トヨタ生産方式というのがありますよね、その勉強に行ったのです。その親玉みたいな人と半日くらい、いろいろとお話する機会があったのですが、そのときに私は通信事業をベンチャーでやっていたので、すごくたくさん大変なことがあって、それをどう整理していくかというところでトヨタ生産方式みたいな話が、「課題だらけで大変ですよ」と言ったら「君ね、課題があるというのは幸せだよ、課題があったら解決できるだろう」と、まず課題をどう認識するかということは、すごく大事なのだなとそのとき学んだのです。

このビジョンも、そういう意味で我々が直面している課題をどういうふうにつまえているかということ、30年後の姿、30年後の姿というのはとても抽象的なのです。具体的に30年後の姿はなかなか描けないですし、こんなふうになったら、少しボヤックとしているのですが、そこから30年後にそこに到達するためには、10年後こういうふうになっていないと30年後いかないよねということで10年。

ところがこの10年ボヤックしていると、そこにどういくかという課題抽出が難しいじゃないですか。ですから今回のビジョンは、10年後の姿をできるだけ具体的に描いて、具体的に描いていくと、何が今足りないのかとか、どこにギャップがあるのかとか、それをどうしたら埋められるのかが、少しずつ分かってくるので、それで課題設定をしてそこにこういうことをやっていこうと、理想的にはそういうふうで作ってあるのです。

そこを目指して今回作ってありまして、その課題設定が正しいのかも含めて、これからビジョンを推し進めながら、修正もかけながら毎年やっていく。

実は今度10年のビジョンに対して5年のアクションプランを作って、5年後というのはもっと具体的に描くということをやって、そこに向けてA、B、Cもやろうとなっているのです。

そういった課題も含めて、そして目指す姿も含めて、できるだけ多くの人と共有して、我々、横串を刺しながら、その課題に向かって実際には県民の皆さんが活動されていくので、それは後押しをしながらうまくつなげて、それが効果的に組み合わせられていくようにしたいと思います。

今日は本当にこういう形で、実は今日初回なのでどういうふうに展開していくかということも、私も全然想像がつかなかったのですが、ビジョンをテーマにいろいろなご意見をお伺いすることができて、すごく良かったなと思いますし、改めて県民の皆様が県の現場であるので、こういった今日お集まりいただいた皆さんが、本当にいろいろな考えをお持ちで、それを応援できたら本当にすばらしい広島県になると思ったしだいであります。

ということで、まとめてしまったのですが。福岡市長何か一言あれば。

福岡市長： こうやって知事自ら三次に来ていただいて、三次のいろいろな思いとか、皆さんの意見を聞いていただくという本当にめったにない機会ですが、三次を発信していただく絶好の機会に皆さん来ていただきました。

本当に今日を迎えるにあたって、皆さん日々悩まれていたと思うのです。知事を目の前にして、何を言おうかみたいところがもしかしたらあったのではないかと思うのですが、知事が自ら話をされて思いの丈を言われて、そういう場の空気を砕いて作っていただく中で、皆さんの意見を引き出していただいたという印象を受けます。

本当に湯崎知事をはじめ、関係者の皆さんに感謝をしたいと思えますし、今日ご参加いただいた皆さんに引き続き力を貸していただきながら、三次の魅力づくりと広島県の元気づくりにつなげていければと思っています。ありがとうございます。

湯崎知事： ありがとうございます。

なお最後の一言ですね、今回の設営、三次市の皆様に本当にお世話になりました。ありがとうございます。

そして、もちろん今日ご参加いただいてご意見をいただきました皆様、本当にありがとうございました。

閉会

司 会： 皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、これをもちまして「ひろしまの未来を語る in 三次」を終了させていただきます。

本日は本当にありがとうございました。